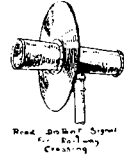


於て場内及遠方信號機を有する主善に徴ひたるものなり即ち鐵道踏切に設けらるゝ電燈信號の後

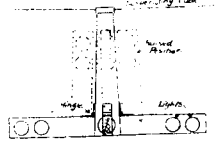


方百呎位の場所に遠方信號機を設くるにあり其構造は圖に示すが如く直径三吋の鋼鐵管上に直径二〇吋の鋼圓板を貫ける直径八吋長さ二呎二分の一の鋼鐵管を水平に支持するものなり而して鋼鐵管及圓板の背面は黒色圓板の表面は赤色に塗り鋼鐵管は路面に平行に置き前方のみ開口し其内部には後方に反射鏡を備へたる強度の燭光を有する電燈を備へ前面には赤色のレンズを箱入せり晝間は赤色圓板を以て危害信號として用ふれども信號燈も亦夜間に於けるが如く明瞭に認むることを得べしと云ふ

(Eng. News, Oct., 28, 1915.....F.)

○セマフォア式街路信號機

圖に示す街路信號機はクリューランド市の巡查 Keckman 氏



の發明に拘るものにして同市イウクリット街及東第九街の交叉點に於て試用せられつゝあり其構造は二條の鍊條を相對する人道の一隅に立てたる柱より斜に張り其交叉點より圖の如き長さ三呎を有し其の下部に凡そ二呎の長さを有する腕を鉸 (Hinge) にて取付けたる柱を吊下せしものなり此信號機は人力にて操縦するものにして此所にては人道上にある交番所内に居る巡查によりて作業せらるゝなり即ち槓杆を動かす時は鍊條の作用によりて信號腕を上下することを得るなり信號腕は左方變向に對し或は車輛が一つの道より他の道に横斷すること及右方變向に對して別々に作業せしむることを得べし而して此等の信號表示は加ふるに各腕には夫々赤色及白色の燈光を備へたり

(Eng. News, Sep. 9, 1915.....H.)

造 船